

木連理仁木也、異本同枝、或枝旁出上更還合、○中略 右下瑞

〔延喜式考異附錄下〕祥瑞考

木連理原注、仁木也、異本同枝、或枝旁出上更還合 案國史所載、不可枚舉、又有草連理、見皇極紀、曰、三年六月癸卯、大伴

長德、獻百合華、其莖長八尺、其本異末連符、瑞志、異根同體、謂之連理、宋志、王者德澤純洽、八方同一

則木連理、瑞志、連理者、仁木也、或異枝還合、或兩樹共合、漢終軍傳、其枝旁出、輒復合于木上、衆支內

附示、无外也、援神契、見芝草下、

〔大和本草十二〕連理 晉中興徵祥記云、或異枝還合、或兩樹共合、瑞應圖云、異根同體、謂之連理、是ハ

木ノ名ニ非ズ、根ヲ異ニシテ、兩木一ニ合タルアリ、或一木二ニワカレ、又合テ一木ニナレルアリ、

〔倭訓彙中編三〕えたをつらぬる。連理枝也、近江國獻木連理の事、和銅中にみゆ、古事記の序に連

柯とも見ゆ、又ちぎりのふかき事にいへり、連理樹は、同木或は異木の根はわかれて、枝の合たる

をいふ、又幹枝合抱の木あり、又一木にて枝葉の分れたるもあり、伊勢阿濃郡草生村に、一枝は榎

の木、一枝は椎の木と次第したるものあり、

〔續日本紀三〕慶雲元年六月己巳、阿波國獻木連理、

〔續日本紀五〕和銅五年三月戊子、美濃國獻木連理并白鴈、

〔續日本紀六〕和銅六年十一月丙子、大倭國獻嘉蓮、近江國獻木連理十二株、

〔續日本紀十一〕天平三年正月庚戌朔、天皇御中宮、宴群臣、美作國獻木連理、

〔延喜式治部二十一〕祥瑞

嘉木○中 右下瑞

〔延喜式考異附錄下〕祥瑞考

嘉木 案木一作本、其品物符應未詳、蓋孝謙紀所謂大和城下郡大和神山生奇藤、其根彫成十六